

## 保護林モニタリング調査間隔の検討のための現地調査について

### 1 目的

保護林モニタリング調査は、通常5年ごとに行っているが、実施効率等の観点から、病虫害やシカ被害等が無い又は軽微な保護林を対象に、改めて被害状況等を把握することにより、モニタリング間隔を10年とすることが可能かどうかの検討材料を得る。

### 2 調査期間

令和2年9月下旬～11月下旬（令和2年8月6日付けで関係署へ通知済み）

### 3 調査内容

病虫害、気象害、シカ・イノシシによる被害の有無等について森林官等により現地調査を行う。詳細は（別添1）参照。

### 4 調査結果の報告

第2回保護林管理委員会にて結果及び見直し案を提示し、モニタリング間隔について検討する。

### 5 調査対象保護林

区分	署名	名称	面積 (ha)	プロット 数	最終調査 年度	シカ被害 レベル	調査間隔 (現時点)
希少 個 体 群 保 護 林	福岡	わかすぎやま 若杉山スギ	3.74	2	H25	0	5年
	佐賀	とうせんざん 唐泉山スダジイ遺伝資源	9.87	2	H26		
		せふりやま 脊振山ブナ等	4.58	2	H26		
		くせんぶやま 九千部山ブナ等	86.74	3	H26		
	長崎	かやせ 萱瀬スギ	3.73	2	H26		
		かやせ 萱瀬ヒバ	0.30	1	H26		
	熊本	すいげん 水源スギ等	1.11	2	H25		
		きんぼうさん 金峰山スギ等	2.38	2	H25		
	大隅	どうがわら 洞河原タブノキ等	20.82	2	H28		
		たかの 高野スダジイ等	33.92	2	H28		





## 様式2 ニホンジカ影響評価簡易チェックシート

シカ被害レベル判定のための  
簡易版チェックシート(Ver.3改訂版-2)

調査日

調査者名

調査地点名 標高 m 緯度・経度 ° ' " ° ' "

林種： 人工林  自然植生(天然林)  代償植生(二次林)  低木群落   
 植生タイプ： 常緑広葉樹林  落葉広葉樹林  針葉樹林  針広混交林   
 地形： 尾根上  斜面  谷   
 微地形： 平地  傾斜地  凹地  凸地   
 シカの生息情報の有無： あり  なし  不明

メモ欄

林内環境：  
写真No.  
シカの被害：  
写真No.  
被害内容

被害レベル3以上の調査  
地で目立つ植物

低木層  
種名：

(写真No. )

草本層  
種名：

(写真No. )

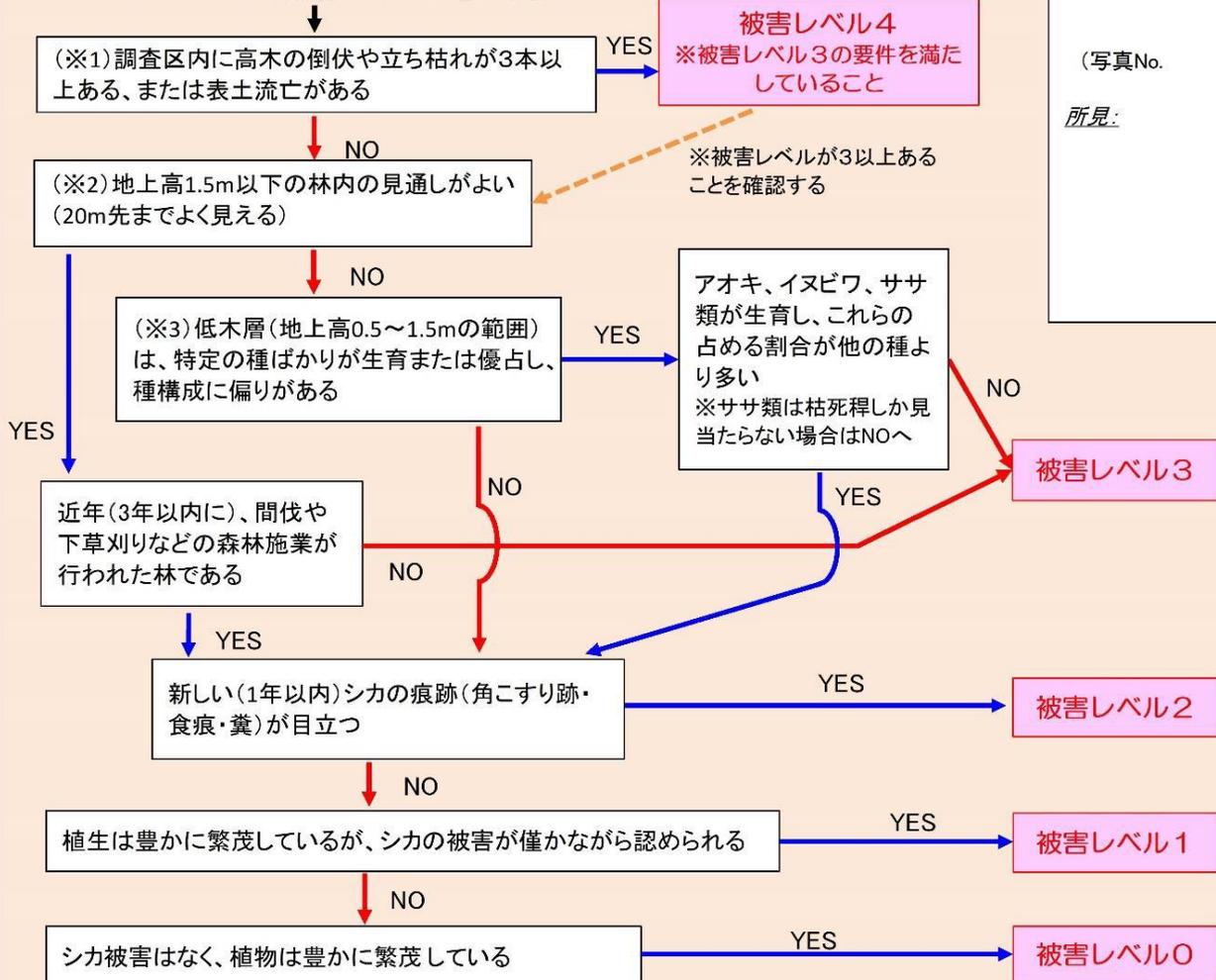
所見：

### ★被害レベル調査範囲

調査区内(20m×20m程度の範囲)における シカ被害状況を確認する  
 なお、シカが生息しているまたはその可能性がある場合に以下のチェックシートを用いる

(人工林:スギ・ヒノキ・アカマツ等の針葉樹やその他広葉樹の植林地)  
 (天然林:人の手によって一度も伐採されたことがない林)  
 (二次林:天然林が伐採された後または焼失した後に自然に再生した林)  
 (低木群落:アカメガシワやカラスザンショウ等、3m以下の先駆性木本種の生育初期段階の林)

Start (YES/NOと被害レベルに○をつける)



※1 高木は森の樹冠を形成する樹木。シカにより林床の植物が減少すると、乾燥に弱いブナなどの樹木が立ち枯れたり倒伏したり、表土流亡が発生しやすくなる。

※2 シカの口がとどく範囲である高さ1.5m程度までの植物がシカから食べられるので、林内の見通しが良くなる。

※3 シカの食害が多くなると、シカの嫌いな植物(忌避・不嗜好性植物)だけが生き残るため多様性が失われる。種構成に偏りが生じる。

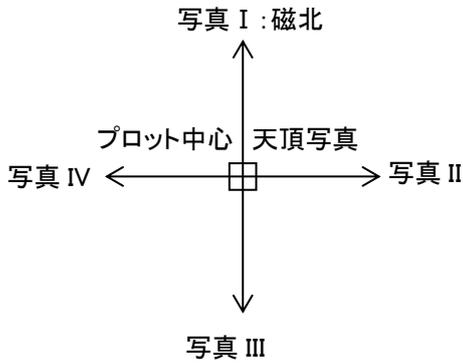
付属資料 シカによる被害:被害レベル区とその概要

被害レベル区分	被害レベル段階内容	森林植生の状況	特徴的な指標			
			林冠の状況	林内の状況	忌避植物の割合	備考
被害レベル0	シカによる被害がほとんどない段階	森林の階層構造、種組成ともに自然状態。	林冠閉鎖	低木層、草本層にほとんど食痕が見られない。	小	
被害レベル1	シカによる被害が軽微で、森林の構造にほとんど変化はない段階	森林の階層構造、種組成ともに自然状態であるが、構成種に食痕が頻繁に認められる。		低木層、草本層に食痕が見られる。階層構造、種組成への影響は少ない。		一見被害がなさそうに見えるが、調査を行うと、被害の痕跡が見られる。
被害レベル2	シカによる被害により森林の内部構造に変化が生じている段階	森林の階層構造(特に低木層・草本層)に欠落が生じ始める。また、種組成に忌避植物の侵入・優占が始め、自然状態の種組成に変化が生じ始めている。		低木層、草本層に食痕が見られる。階層構造、種組成に変化が生じる。	低木層、草本層の種数の減少や、特定の種(忌避植物ほか)の優占等が見られる。	
被害レベル3	シカによる被害により森林の内部構造が破壊された段階	森林の階層構造(特に低木層・草本層)に欠落が生じ始める。また、低木層、草本層に忌避植が優占し、自然状態の種組成とは異なった林分となる。		低木層、草本層に食痕が見られる。階層構造、種組成に欠落が生じる。	林床にスズタケの優占する森林では、枯死桿の存在で比較的簡単にわかる。	
被害レベル4	シカによる被害により森林が破壊された段階	森林の低木層・草本層に加え、亜高木層・高木層当の林冠構成種の一部が枯死し、森林としての階層構造に欠落が生じる。また、低木層、草本層に忌避植が優占し、自然状態の種組成とは異なった林分となる。		林冠に(シカによる)ギャップが生じる	低木層、草本層に食痕が見られる。階層構造、種組成に欠落が生じる。	大

メモ欄


### 様式3 調査プロット情報(写真1)

保護林名	林小班名	プロット No.	調査年月日



調査点天頂写真  
(天頂方向)

調査点写真 I  
(磁北方向に撮影)

- ※ プロット中心から磁北を上として天頂を撮影し、下の貼付欄へ貼り付けること。
- ※ プロット中心から東西南北方向に各 1 枚写真を撮影し、北方向の一枚については下の貼付欄へ、東西南方向については、様式4(写真2)に貼り付けること。
- ※ 被害状況の写真等は様式3(写真3)に貼り付けること。
- ※ 方位については、全てコンパスによる測定で確認する。
- ※ 撮影方向が手前の幹等でさえぎられる場合、避けて撮影してもよい。


### 様式3 調査プロット情報(写真2)

保護林名	林小班名	プロット No.	調査年月日

調査点写真 II  
(磁東方向に撮影)

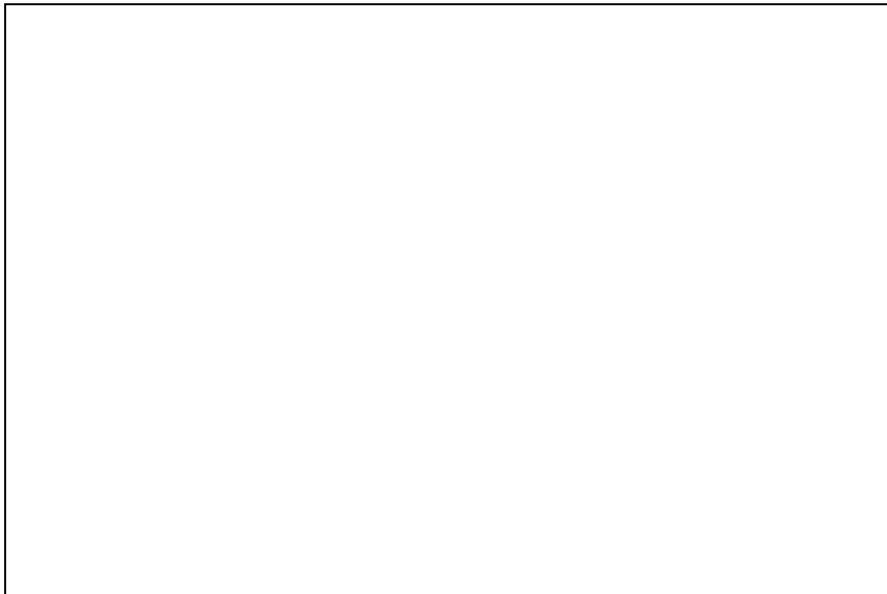
調査点写真 III  
(磁南方向に撮影)

調査点写真 IV  
(磁西方向に撮影)

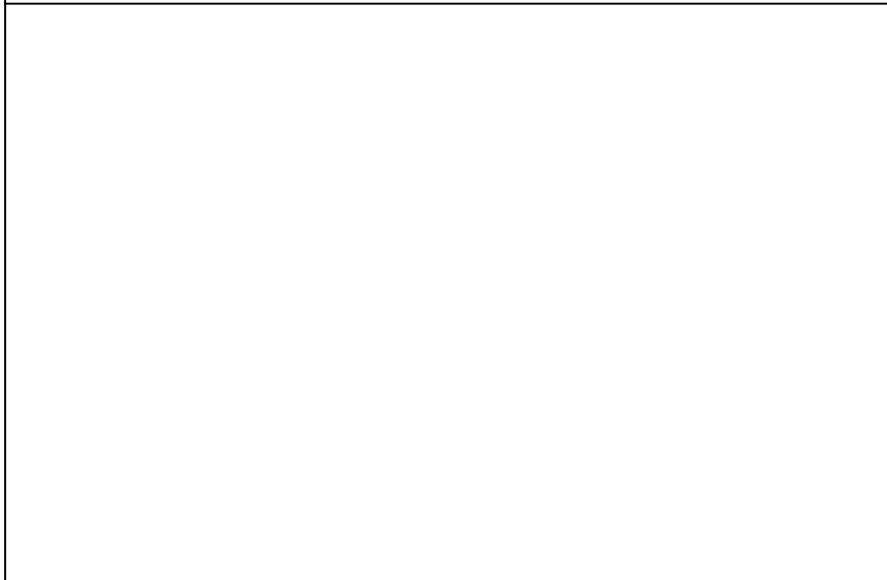
### 様式3 調査プロット情報(写真3)

保護林名	林小班名	プロット No.	調査年月日

被害状況写真等①



被害状況写真等②



被害状況写真等③



※必要に応じて欄を追加